



集成材の加工技術により新たな建材を開発

自社の集成材の加工技術(特許公開番号 2010-035245)をアクリルとの接着法に活用し、樹脂版と集積材を交互に並べた状態で接着加工した建材を製造。現時点では商品の用途等も掴みきれず、今後の展開は未知数である。

業況等の動向について

本業の動向について

木製家具製造販売を本業とする。現在は、テレビラックの製造が全体の7割を占める状況。残り3割は家具等を製造している。昨年からの7月まではテレビの駆け込み需要に比例してテレビラックの売り上げは急激に伸びた。しかし、8月以降はテレビのエコポイントが終了し売り上げが減少している。また、現時点でのテレビラックの顧客単価は、テレビ本体の2割程度までとなっており、テレビ本体の値動きや売れ行きに左右されることが避けられない商品である。

異業種参入事業の概要

樹脂版と集積材を交互に並べた状態で接着加工し、透光性を持った内装建材『アクアウッド』の製造。現時点で、はっきりとした用途が掴みきれず、顧客がどのような使い方をするのかも想像出来ない部分があり、手さぐり状態にある。現在の参入事業の業容は売上高構成比率 1%未満である。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

イタリアに類似したものがあつたのを見かけた方に、こんな物は出来ないかと相談を持ち掛けられたのが参入のきっかけであった。

マーケティングについて

展示会に何度も出展し、代表者自身も業者を含め様々な地域へ足を運び反応感触を確かめた。

参入して際の投資について

標準仕様・特別仕様の機械への設備投資を行った。投資額はおよそ600万円ほどである。

参入して最も成果のあがったこと

現状では、まだ手探りの状況にあり成果等はまだまだはっきりとは見えていない状況である。

参入して最も困難だったこと

接着剤と木の相性を確認する為の実証実験の繰り返し。四季を通じての実験は期間も長く厳しかった。

参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

集成材の加工技術(特許公開番号 2010-035245)を有している。アクリルと集成材の接着方法などの面で活用した。

今後の展望・見通し

具体的な展望・見通しは難しい。時期的な厳しさや単価が高いのが販売数の伸びを鈍らせる要因になる可能性を含んでいる。しかし、今後は、ゆっくりとではあるが知名度を上げることにより、売り上げを伸ばしていける可能性が大きいと信じている。

メリット・デメリット

変化の激しい時代なので、チャレンジをして自らの技術も向上させることができ、何かを得られるのはメリットである。デメリットは、現時点では特に感じていない。

異業種参入時のアドバイス

小さい投資・試験を行い続ける事で光明を見出すことがある。少しずつの積み重ねが重要だと考えている。

行政の支援について

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

提出書類の簡素化をお願いしたい。書類作製に社内の人的エネルギーを大きく割かれる事がなくなれば大変助かる。

会社概要

設立:1966年(昭和41年)1月

資本金:4,982万円

従業員数:98名

URL:<http://www.asahiwood.co.jp/>